T. & K. Ito. 1977. Journ. Jap. Bot. **53**: 33-43. Sugiura, T. 1931. Bot. Mag. Tokyo **45**: 355. Takamine, N. 1916. Bot. Mag. Tokyo **30**: 293-303. Tateoka, T. 1973. Bot. Mag. Tokyo **86**: 213-228.

*　　*　　*　　*

第一報にひきつづき本報では本州（関東，東北）で得られたフクジュソウの染色体数と外部形態についての結果を報告する。供試植物は，十和田，弘前，相馬（青森県），西根，平泉（岩手県），鳴子（宮城県），吉田，両神，寄居（埼玉県）の 9 ケ所から得られ，2n＝16，24および32の染色体数が確認された。

染色体数と外部形態との関係から日本産のフクジュソウについて次のような区分を試みた。(1) *A. amurensis* Regel et Radde キタミフクジュソウ（本田 1939），イチゲフクジュソウ（北川 1971），i）染色体数 2n＝16 で道北，道東に分布し，葉裏に毛を密生し，1 茎に 1 花をつけ，萼片と花弁がほぼ等しい。ii）染色体数 2n＝32 で主として道央，道南および本州北部に分布し，葉は無毛あるいはほとんど無毛。(2) *A. ramosa* Franch. sensu Gorovoy et Guruzenkov フクジュソウ（北川 1971 の意），染色体数 2n＝16，葉は無毛，1 茎に多数花をつけ，花弁は萼片より明らかに長い。東北地方北東部，十和田，西根産のフクジュソウに基づいた。外部形態的には Gorovoy と Guruzenkov の述べている *A. ramosa* に一致するが，染色体数は一致しない。しかし本報では形態的特徴からこのものにあてておく。(3) 園芸品種 福寿海，染色体数 2n＝24，交雑によって生じたと予想される。外部形態は，2n＝32 の *A. amurensis* と 2n＝16 の *A. ramosa* との中間を示す他，花粉の稔性は著しく低く 7% にすぎない。埼玉県寄居産のものに基づく。

□天野鉄夫：**琉球列島植物方言集** 303 pp. 1979 VI，新生図書出版，￥2,500. 沖縄の植物の方言を集めたもので，ことに我々には目新らしいが，じつは存外古い日本語の祖型がまじっていようと思われるものであって，すこしひもどくと興味津々である。たとえばマヤプシキは猫ヒルギの意味だが，ハマザクロの外にメヒルギにもヒルギモドキにもあって，広くヒルギ類に使われたらしい。サキシマハマボウにマヤマキの名があり，これは猫が死ぬとビロウの葉で包んで，この木の枝にかけて風葬する慣わしに由来するというなど。できれば沖縄独特の言葉の由来にももう少しふれてほしかった。索引も和名，学名，方言，方言解説とよくつけてある。まことに貴重な出版物で，著者の多年の御努力に感謝するものである。　（前川文夫）